

第5分科会

DVのない社会をめざして ～みんな大切な人♡あなたにできることは…～

3人のパネリストを迎え、子どもや若い人の被害について学び、必要な支援と効果的な予防教育のあり方について話し合いました。

中でもパネリストの「ウィメンズクリニック・かみむら」上村医師のお話が印象的でしたので紹介します。

※DV（ドメスティックバイオレンス）：暴力による相手の支配・コントロール

『ウィメンズクリニック・かみむら』の上村医師の活動

- ・女性総合診療所でDV被害者の話を聞き出す。
- ・全国の学校にて性教育の講演を行っている。
- ・小学校の講演で役割演技を用いて、友だち形成、寄り添い方を教えている。

私たちができることは…

- ・心を開いて相談できる大人、信頼できる大人がいる環境をつくること。
- ・それぞれのニーズに対応し、心の声に耳を傾けること。
- ・人権、ジェンダーの視点でまわりに話をして、孤立を防ぎつなぐこと。

※ジェンダー：社会的、文化的な性差

『ハートフルステーション・あいち』（参考）

「ハートフルステーション・あいち」とは性犯罪にあわれた方に対して、以下の支援をワンストップで行うことのできる施設で、県内で唯一、大雄会第一病院（一宮市）に設置されています。

- ・常駐する支援員による被害相談や情報提供
- ・拠点病院での婦人科医師による診察・緊急避妊・性感染症等検査
- ・参集した警察官による被害受理・証拠採取
- ・参集した臨床心理士によるカウンセリング 等

そのほか、被害にあった方が安心して相談できる場所として、それぞれが協力して様々な支援を行っています。



分科会報告

第6分科会

ありのままを生きられる虹色社会に ～人の数だけ性がある～

カミングアウト、性同一性障害、トランスジェンダーという言葉が、世間に知られる言葉となり、アイルランドでは国民投票によって同姓婚を認める憲法改正が行われ、東京都渋谷区や世田谷区では、「パートナーシップ証明書※」の交付が行われるといった動きがありました。

※パートナーシップ証明書

同性カップルを結婚に相当するパートナーの関係であると証明する書類。

その背景にあるのは・・・

G：ゲイ
(男性同性愛者)

B：バイセクシャル
(両性愛者)

L：レズビアン
(女性同性愛者)

T：トランスジェンダー
(心と体の性の不一致)

の方々の存在です



ファシリテーターの鈴木富美子さん



パネリストのみなさん

今回の女性会議でも、多様なジェンダー・アイデンティティ（性自認）を持つ方々をお迎えして分科会が行われました。

今回出席されたみなさんはカミングアウトし、主体的に語ることでできる人たちで、少数派の中のさらに少数派の方々です。声に出せない人も多くいます。

私たちはこのような多様性を理解し、受け入れることを求められる時代に生きているのだ、ということを強く感じた分科会でした。